

Ⅲ 財務諸表（要約版）

1 貸借対照表

（単位：百万円）

資産の部	金額	負債の部	金額
固定資産	26,166	固定負債	29,625
有形固定資産	25,045	資産見返負債	1,038
無形固定資産	58	長期借入金	7,599
投資その他の資産	1,063	移行前地方債償還債務	14,237
流動資産	8,480	引当金	6,735
現金・預金	4,740	長期リース債務	16
未収金	3,597	流動負債	4,914
貸倒引当金	▲ 44	1年以内返済予定長期借入金	1,055
医薬品等	164	1年以内返済予定移行前地方債債務	1,403
その他	22	1年以内返済予定リース債務	18
		未払金	1,550
		賞与引当金	677
		その他	211
		負債合計	34,539
		純資産の部	金額
		資本金	306
		資本剰余金	20
		利益剰余金	▲ 219
		純資産合計	107
資産合計	34,646	負債・純資産合計	34,646

2 損益計算書

（単位：百万円）

科目	28年度決算	28年度計画	27年度決算
経常収益(A)	23,095	23,192	23,222
医業収益	16,710	16,841	16,846
介護老人保健施設収益	371	387	373
看護師養成所収益	20	21	15
運営費負担金収益	5,480	5,480	5,480
その他経常収益	514	463	508
経常費用(B)	23,358	23,180	23,185
医業費用	21,355	21,166	21,197
給与費	12,333	12,216	11,912
材料費	3,749	3,533	3,898
減価償却費・資産減耗費	2,278	2,278	2,322
経費	2,926	3,056	2,994
研究研修費	69	83	71
介護老人保健施設費用	442	450	434
看護師養成所費用	157	155	140
一般管理費	356	358	296
財務費用	492	493	538
その他経常費用	556	557	580
経常損益(A-B)	▲ 264	12	37
臨時損益(C)	-	-	▲ 4
当期純損益(A-B+C)	▲ 264	12	33

3 キャッシュフロー計算書

(単位：百万円)

科 目	金 額
I 業務活動によるキャッシュ・フロー(A)	1,987
医業等収入によるキャッシュ・フロー	17,304
運営費負担金収入によるキャッシュ・フロー	5,480
医業業務活動収入によるキャッシュ・フロー	136
人件費及び材料費によるキャッシュ・フロー	▲ 17,159
その他の業務活動によるキャッシュ・フロー	▲ 3,281
利息の支払額	▲ 494
II 投資活動によるキャッシュ・フロー(B)	▲ 172
III 財務活動によるキャッシュ・フロー(C)	▲ 655
IV 資金増加額(D=A+B+C)	1,160
V 資金期首残高(E)	580
VI 資金期末残高(F=D+E)	1,740

4 行政サービス実施コスト計算書

(単位：百万円)

科 目	金 額
I 業務費用	6,070
損益計算書上の費用	23,358
(控除)自己収入等	▲ 17,288
II 引当外退職給付増加見積額	18
III 機会費用	40
IV 行政サービス実施コスト	6,129

(参考) 財務諸表の科目の説明

1 貸借対照表

固定資産

- 有形固定資産・・・土地、建物、医療用器械など
- 無形固定資産・・・ソフトウェア、電話加入権など
- 投資その他の資産・・・修学資金貸付金など

流動資産

- 現金及び預金・・・現金、預金
- 未収金・・・医業収益に対する未収金など
- 貸倒引当金・・・債権の貸倒れによる損失に備えるため回収不能見込額を引当
- 医薬品等・・・医薬品、診療材料、貯蔵品の期末棚卸在庫
- その他・・・前払保険料、賃借料の前払いなど

固定負債

- 資産見返負債・・・償却資産に充当した補助金等相当額
- 長期借入金・・・県からの借入金
- 移行前地方債償還債務・・・法人移行前に借り入れた地方債の償還債務額
- 引当金(退職給付引当金)・・・将来支払われる退職給付に備えて設定される引当金

リース債務・・・・・・・・・・リース取引に係る債務

流動負債

1年以内返済予定長期借入金・・長期借入金のうち1年以内に支払期限が到達する債務

1年以内返済予定移行前地方債償還債務・・移行前地方債償還債務のうち1年以内に支払期限が到達する債務

未払金・・・・・・・・・・医業費用等及び器械・備品など償却資産に係る未払債務

1年以内支払予定リース債務・・リース債務のうち1年以内に支払期限が到来する債務

未払費用・・・・・・・・1年以内返済予定移行前償還債務及び長期借入金に係る未払利息

賞与引当金・・・・・・・・支給対象期間に基づき定期的に支給する役員及び職員賞与の引当金

その他・・・・・・・・預り金、仮受金など

純資産

資本金・・・・・・・・設立団体である県からの出資金

利益剰余金・・・・・・・・業務に関連して発生した剰余金の累計額

2 損益計算書

医業収益・・・・・・・・・・医業（入院診療、外来診療など）に係る収益

介護老人保健施設収益・・介護老人保健施設の営業活動に係る収益

看護師養成所収益・・・・・看護師養成所の運営に係る収益

運営費負担金収益・・・・・高度医療、政策医療等に要する経費に係る県の負担金

その他の経常収益・・・・・補助金収益、資産貸付収益など

医業費用・・・・・・・・・・医業（入院診療、外来診療等）に要する給与費、材料費、委託費、減価償却費、研究研修費など

介護老人保健施設費用・・介護老人保健施設の営業活動に係る費用

看護師養成所費用・・・・・看護師養成所の運営に係る費用

一般管理費・・・・・・・・・・本部組織に係る給与費、経費など

財務費用・・・・・・・・・・借入金の支払利息

その他の経常費用・・・・・控除対象外消費税など

臨時損益・・・・・・・・・・臨時的に発生する収益や費用

3 キャッシュ・フロー計算書

業務活動に係るキャッシュ・フロー

医業等収入によるキャッシュ・フロー

・・・・・・・・医業及び介護老人保健施設の営業活動に係る収入

運営費負担金収入によるキャッシュ・フロー

・・・・・・・・県からの運営費負担金に係る収入

医業業務活動収入によるキャッシュ・フロー

・・・・・・・・国、県等からの補助金、寄付金など

人件費及び材料費によるキャッシュ・フロー

・・・・・・・・人件費、医薬品等の材料費購入に係る支出

その他の業務活動によるキャッシュ・フロー

・・・・・・・・上記以外の業務活動に係る収入、業務活動に係る支出

投資活動によるキャッシュ・フロー

・・・・・・・・固定資産の取得、除却に係る支出など

財務活動によるキャッシュ・フロー

・・・・・・・・長期借入れによる収入、移行前地方債償還債務の償還による支出など

4 行政サービス実施コスト計算書

業務費用

損益計算書に計上される費用から医業収益などの自己収入を控除したもの

引当外退職給付増加見積額

事業年度末に在籍する県からの派遣職員について、期末の自己都合要支給額から期首の自己都合要支給額を控除したもの

機会費用 県からの出資額を一定の利回りで運用した場合に想定される利息相当額等

IV 財務諸表の要点

1 財務諸表の概況

(経常収益)

平成28年度の経常収益は23,095百万円と、前年度と比較して127百万円減少し、年度計画との比較でも97百万円下回りました。

主な理由は、次のとおりです。

(1) 医業収益が、前年度と比較して136百万円減少し、年度計画との比較でも131百万円下回りました。

- ・ 入院収益は、阿南病院では眼科医の常勤化により、こども病院では小児集中治療などの高度医療に対する管理料の増により増加する一方、須坂病院では産婦人科の休止や病棟再編により、こころの医療センター駒ヶ根では短期間での再入院患者の増加及び木曽病院では循環器内科医の不在による入院患者数の減等から収益が減少しました。また一人当たり診療単価は須坂病院とこども病院を除き減少し、5病院全体の入院患者数が対前年度比97.5%となり、減少しました。

年度計画との比較では、木曽病院で計画を大きく下回ったことから、全体では253百万円下回りました。

- ・ 外来収益については、須坂病院で透析治療の増加により、こども病院では股関節外来の開設等により収益が増加しましたが、こころの医療センター駒ヶ根ではデイケアの患者の減少、阿南病院では小児患者の減少及び木曽病院の肝炎に対する高額薬剤使用患者の減少により、前年度を下回りました。5病院全体の外来患者数が対前年度比97.5%と減少し、外来収益全体としても減少しました。

年度計画との比較では、5病院全体で151百万円の増となりました。

(経常費用)

平成28年度の経常費用は23,358百万円と、前年度と比較して173百万円増加し、年度計画との比較でも178百万円上回りました。

主な理由は、次のとおりです。

(1) 医業費用が、前年度と比較して158百万円増加し、年度計画との比較でも189百万円上回りました。

- ・ 給与費は、人事委員会勧告に準拠した給与制度の改正や年金制度改革による法定福利費の増により各病院で増加し、全体では前年対比421百万円の増加、計画対比でも117百万円増加しています。
- ・ 材料費については、こども病院の高額な薬剤や診療材料の増がありましたが、木曽病院の肝炎に対する高額薬剤使用の減少などから対前年比149百万円減少しましたが、計画対比では215百万円上回りました。
- ・ 経費については、燃料費や修繕費の減少などから前年対比、計画対比ともに減少しました。
- ・ 減価償却費、資産減耗費は、前年対比44百万円の減額となりました。

(損益)

平成28年度の経常損益は264百万円の経常損失となり、前年度の経常損益を301百万円下回りました。

(資産・負債)

平成28年度末の資産合計は34,646百万円となり、前年度に比べ1,063百万円減少しています。一方、負債合計は34,539百万円と、前期末と比較して800百万円の減少となりました。純資産は107百万円と前期末と比較して264百万円の減少となりました。

2 施設等投資の状況

(資本的収支状況)

(単位：百万円)

項目		平成28年度 実績(a)	平成28年度 計画(b)	実績-計画 (a)-(b)	備考
収入	長期借入金	1,982	2,807	△ 825	
	その他収入	195	39	156	
	計	2,177	2,846	△ 669	
支出	建設改良費	2,175	2,847	△ 672	
	施設整備事業	267	410	△ 143	
	その他建設改良事業	561	701	△ 140	
	医療機械等整備事業	1,345	1,492	△ 147	
	その他	2	244	△ 242	
	貸付金	19	14	5	
	移行前地方債償還債務元金償還金	1,384	1,384	0	
	長期借入金元金償還金	1,232	1,232	0	
	計	4,810	5,477	△ 667	

(1) 主な施設整備事業

須坂病院	内視鏡センター棟建設事業
------	--------------

(2) 主なその他建設改良事業

木曽病院	療養病棟外壁改修工事
こども病院	P I C U増床事業

(3) 主な医療器械等整備事業

須坂病院	M R I、自動採血管準備システム、腹腔鏡カメラシステム
阿南病院	光干渉断層計O C T
木曽病院	X線T V撮影装置、全自動錠剤分包機
こども病院	電子カルテシステム、一般撮影用F P Dシステム、超音波診断装置E P I Q、次世代シーケンサー、胎児分娩集中監視システム、全自動輸血検査システム